

人権問題の学習会などで、「加差別」「被差別」という言葉がよく使われます。差別の問題を考えるとときには両者の関係性を明らかにすることは大変有用なことです。

例えば、「人種差別」において私たち日本人は「加差別」の側でしょうか。「被差別」の側でしょうか。人種差別は日本人には関係ないという人がいますがそうではありません。「一般的に「人種差別」とは「白人が黒人を差別すること」と理解されやすいのですが、辞書では「人種的偏見によって、ある人種を社会的に差別すること。」(「大辞泉」より)となっています。

かつて、南アフリカ共和国のアパルトヘイト(人種隔離政策)の時代には、レストランやバスの昇降口には、「white only」(ホワイトオンリー)と「colored (カラード)」と書かれていて、人種によって違った取り扱いをする政策が執ら

れていました。政策で隔離(差別)されていたのは「有色人種」全般でした。

私たち日本人は「有色人種」として被差別の立場にあるはずですが。ただ、このアパルトヘイト政策下では日本人は「名誉白人」とみなされ、「white only」の昇降口からバスを降り降りができ、レストランで食事をするのができたのです。というのもも日本がアパルトヘイト政策を推進する南アフリカ政府を支持していたからであり、これは人権上の大きな問題でした。

南アフリカ共和国の人種差別においては、本来私たち日本人は「被差別の側」であったのかもかわらず、「加差別の側」に組んでいたのです。この例のように「加差別」と「被差別」は時に入れ替わることもあり、関係性の問題がむずかしくなる

部分があります。しかし「加差別」「被差別」の関係を理解しようとしなければ差別の深層に迫ることは困難です。

なかには「あなたは加差別の側だ」と言われることに不快感を示す人もいます。しかし、「あなたは加差別の側だ」というのは、決して「あなたは差別者だ」といつているわけではありません。「加差別の側」にあっても差別をしない例はいくらでもあります。そのためには、持続的な学習によって絶えず人権の尊重に理解を示していく態度を持ち続けていかなければなりません。

私たちは、差別の問題をより深く理解するために、「加差別」「被差別」の関係性を明らかにし、人権の守られた社会を建設していくために更なる努力をしていかなければなりません。

# 加差別と被差別

## 参加者のみなさまの声

### 第2回 南部町人権セミナー「こどもの人権」講師/松村久さん(米子児童相談所長)

- ・ こどもを育てやすい環境作りについて、行政と保護者の話し合いがあれば良いと思った。
- ・ 法制度や支援体制は(専門的なことは)よくわかったので、具体的な事例が聞きたい。
- ・ こどもの親が参加できる会合をもっとしてほしい。
- ・ 虐待を発見したとき、どこに行って、誰を頼ったらいいのか、対処の仕方がわかった。
- ・ 学校、保育園の先生の話も聴きたい。
- ・ これまでのこどもに対する考え方が少し変わったように感じる。
- ・ 児童相談所も変わったなあ、と思った。